



## ○「40周年」

松江市、八束郡の中学校卒業生数の増加と普通科高校への進学志向が高まる中、1983（昭和58）年4月9日に松江東高等学校の開校式が行われました。40年の月日を重ね、10月21日（土）の創立40周年記念式典まであと少しです。



同じころ、私は高校を卒業したものの大学受験に失敗し、補習科入科式に出ていました。各方面からの期待を背負ってスタートした松江東高校の話題を耳にしながらい人生活をはじめたことを思い出します。

同じ年には、2年生が研修旅行で訪れる東京ディズニーランドが開園していて、松江東高校と同じ40周年を迎えます。視聴率60%を超えたNHKの朝ドラ「おしん」もこの年でした。困難に直面しても力強さと粘り強さで乗り越えていく姿が話題となっており、浪人生活の中である意味励みになったことを思い出します。再放送で観ましたが、人を許す心の寛容さにも感銘を受けました。この年のドラマで「ふぞろいの林檎たち」は4流大学、「青が散る」は3流新設大学が架空設定されました。学歴などのコンプレックスとどう向き合っていくか、それをどう乗り越えていくかが描かれていて、今思えば当時の世相を反映していたと思います。置かれた場所\*1でどう咲くか、矜持とはなにかを問われていた気がします。

また、任天堂が「ファミリーコンピュータ（ファミコン）」を発売したのもこの年です。ゲームセンターのインベーダーゲームで高校時代を過ごしましたが、みんなで集まってみんなで楽しむ感じでした。

今の若者は、仙台育英高校の野球部須江監督の言葉を借りれば「選択ネイティブ」と言われています。その始まりがこの頃だったと思っています。一人部屋が与えられ、ともすれば部屋に自分専用のテレビや電話（今は携帯電話）があるようになったのもこの頃からです。居間に1台しかないテレビでニュースや水戸黄門を否応なしに観させられた時代は終わりをつげていきました。自分が好きな時間に好きなことができるようになっていきました。それは嫌なことはしない選択をできることでもありました。私は、大学時代共同アパートで過ごしました。風呂やトイレ、洗濯機はもちろん、電話もピンク電話\*2でした。しかし、徐々に部屋にバス、トイレが付いているアパートが増えてきて、学生同士の交流が少なくなっていました。

今の時代は、情報があふれています。だから欲しい情報だけに飛びついてしまうことがあります。若者人口が減ったからとは言いませんが、様々な機会や場が有り余っていて、競争なく自分で選びさえすれば得られる時代にもなってきました。そのため自ら選ばないこともできるようになりました。つまり、なんでも自分で取舍選択できる時代になってきました。それが「選択ネイティブ」です。40年前はまさに玉石混交の時代で競争社会でした。対人関係も集団の中に投げ込まれる中で築いていたように思います。

須江監督は「今の若者は欲しいものしか求めない。だから、相手がききたいことはなにか傾聴することが大事である。」とされています。自分の欲しいものが俯瞰した中で見えていけばよいのですが…

矜持俯瞰という学校スローガンを目にしたことがあります。一人よがりにならず、好きなことだけをせず、積極的に挑戦していく、それが自信につながる…そんなメッセージが込められていると思いました。

\*1 渡辺和子著『置かれた場所で咲きなさい』

\*2 着信もできる公衆電話？ 輪番で電話当番していました